

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設に係る市民説明会 (第2回)	日時	平成31年1月27日 (日) 10:00~11:43	場所	商工会館大会議室
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当課長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉社会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、岡崎主任、小林主任 地域福祉課 山口主査			
参加者数	21人 (うち市議会議員6人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 これまでの経過と今後の取組みについて 4 基本設計業務委託公募型プロポーザルの実施について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行：渡辺主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶 西岡市長による開会挨拶を行った。</p> <p>3 これまでの経過と今後の取組みについて</p> <p>4 基本設計業務委託公募型プロポーザルの実施について 西岡市長及び高橋庁舎建設等担当課長が各項目について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>【市民A】 平成30年11月の市民説明会では施工段階でのスケジュールが示されていたが、今回の市民説明会では施工段階のスケジュールが示されておらず、後退したように受け取れる。施工段階も含めた工程表が必要と考える。いつから市民が使えるか示してもらいたい。 → 平成30年11月の市民説明会では、調査資料を基に新庁舎・(仮称) 新福祉社会館を同時竣工した場合のスケジュールと、(仮称) 新福祉社会館を先行竣工した場合のスケジュールを示したが、(仮称) 新福祉社会館の早期回復を要件として設計に着手することとした。スケジュールは、基本設計の内容によるため、施工開始前までのスケジュールを示している。</p> <p>【市民B】 広場と緑地の確保を考えるとC-2に優位性があると考え。広場空間を広く取ってほしい。 → これまで施設配置の検討を行ってきたが、基本設計に当たっては、提案条件を示した上で設計者を選考することとなる。広場の確保については、施設配置によるところであるため、現在事業候補者の選考中であり、意見として承る。</p> <p>【市民B】 リサイクル事業所の閉鎖により、使用可能なものがごみとして処分されることとなる。リサイクル事業について、継続してもらいたい。免震構造を採用することにより、地下空間へリサイクル事業所機能を入れることも可能と考える。リサイクル事業所の在り方についても検討してほしい。 → シルバー人材センターとは協議を重ね休止を判断した。清掃関連施設整備基本計画に沿って二枚橋焼却場の跡地の整備が平成31年度から始まる。二枚橋焼却場跡地で展開する処理施設の中で粗大ごみの有効活用について検討していく。意見は受け止める。</p> <p>【市民C】 市民参加のスケジュールはいつ頃を想定しているか。 → 事業者から工程の提案をもらい、協議の上、定まることとなる。設計レビューは一定程度基本設計案がまとまった段階を予定している。そこでの意見も踏まえて、基本設計案が固まった段階でパブリックコメントや市民説明会を行い、基本設計としてまとめる。他の市民参加手法については、事業者からの提案事項であり、実施時期は未定である。</p> <p>【市民D】 免震構造を採用することは決定事項か。 → 免震構造を採用する方が望ましいとの検討結果は平成29年度に得ているが、実際に免震構造を採用するかどうかは上部構造と合わせて検討する。このことから、免震構造を採用するということを決定したものではない。</p> <p>【市民D】 総事業費約91億円は、増える可能性があるのか、減る可能性があるのか。その幅はどの程度なのか。人口減少社会に入っているが、新庁舎建設に係る市民1人当たりの負担額はいくらになるのか。 → 総事業費約91億円は、平成29年度の調査結果に基づくものであり、当該調査時点では新庁舎、(仮称) 新福祉社会館共に免震構造という条件で試算したものである。市民1人当たりの負担という視点での試算は行っていない。</p>				

- 【市民D】 他自治体では安いところで市民1人当たり4万円以下、高いところで5万円を超えている。91億円を新庁舎と（仮称）新福祉会館の面積で按分すると、新庁舎で約6億6,000万円であり、12万人の市民で割ると市民1人当たり約5万6,000円となる。近隣他市の庁舎建設費と比べると高額であり、コスト削減を考えるべきである。茨城の自治体では庁舎が広すぎて困っている事例もあり、人口動態を踏まえた長期的な視点で考えるべき。また、施設配置について、新庁舎の日影となるような（仮称）新福祉会館としてはならない。
- 建設費は、建設時期によっても異なる。コスト削減は重要な視点であり、提案条件としている。市としても努めていきたい。12,665㎡という面積は他自治体の事例と比較して広い面積ではない。（仮称）新福祉会館と複合化することで、更なる面積縮減を図っていきたい。使いやすい庁舎、コンパクトな庁舎を目指していきたい。施設配置は、今後基本設計段階で検討していくものであるため、意見として承る。
- 【市民B】 免震構造の場合、1億円以上の金額が掛かると聞いており、（仮称）新福祉会館を免震構造にする必要はないと考える。多摩26市でも福祉会館を免震構造としている自治体はない。貫井北町地域センターも免震構造ではない。慎重に考えてほしい。また、庁舎建設予定地は湧水源であり、施設を建設したことで湧水が枯れることのないよう対策を考えてほしい。
- 耐震構造については、先程の説明どおりであり、意見として承る。地下水については、「小金井市の地下水及び湧水を保全する条例」を定めており、適切な対応をしたい。これまでの市政上、例のない公共施設の集約化事業であり、市民の方々に長い間、親しんでいただきたい施設である。安全・安心の視点は欠かせず、上部構造も含めて基本設計段階において検討していきたい。施設の建設により、地下水の保全に影響がないよう適切に対応していきたい。
- 【市民E】 現本庁舎の北側が冬季には庁舎の日影となっている。新庁舎は庁舎建設予定地に建設して、（仮称）新福祉会館は本庁舎跡地に建設してはどうかとこれまで意見を述べてきた。本庁舎跡地はどのように活用されるのか。
- （仮称）新福祉会館の建設場所は、庁内及び、（仮称）小金井市新福祉会館建設基本計画市民検討委員会で議論し、庁舎建設予定地と定めた。また、（仮称）新福祉会館の早期回復を設計条件に含めて、事業を進めていく。施設の集約化に伴う跡地の活用については、どのような形が市の将来にとって、市民にとって望ましいのか今後検討を進めていく。本庁舎跡地の活用については、現段階では定まっていない。
- 【市議A】 市民からの意見に対し、「意見を受け止める」という回答しかない。受け止めて検討するのか、受け止めるけど考え方が違うのかはっきりしていない。意見を出した市民の方も受け止めてやってくれるのかどうか分からない。もっと対話すべきであり、回答の仕方を考えるべきである。
- 【市民F】 今日は説明会であり、座談会ではない。対話する場ではないと考える。
- 【市議B】 市議会には工事完了までのスケジュール案や施設配置案も出している。市民の皆さんは、日曜日にわざわざ来ていただいており、初めて説明会に出席する人もいるのだから、今後は、適切な資料を市民の方々にも示すべきである。
- 【市民G】 市が考えているユニバーサルデザインとは何か。
- どなたでも分かりやすい、使いやすいということを考えている。
- 【市民G】 国際的に、誰でも使えるということは不可能という見解が示されている。どなたでも使いやすいというのは不可能なので、確固たる評価の視点を持つべきである。
- 高齢者、障害者、外国人等についても使いやすい施設を考えており、施設の通路幅や表示についても考えていきたい。整備に当たっては、バリアフリー法等も踏まえて整備していく。高齢者団体や障害者団体からも意見を聴取する予定である。
- 【市民D】 総事業費は、増える可能性があるのか、減る可能性があるのか。設計者に丸投げのように聞こえたが、上限額を設定しないのか。
- 総事業費約91億円は、平成29年度の調査結果であり、16,400㎡の施設を建設するため試算しているが、工事費は時期によるものもあり、基本設計・実施設計を進めていくことで工事費の試算は精度が高まっていく。コンパクトな施設でコストも削減していきたいと考えるが、精度を高めていく中で91億円を超えないと約束できるものではないが、基本設計の中ではVE（バリューエンジニアリング）を行う予定であり、費用は抑えていくよう努めるが、今後の状況によることについては御理解願いたい。
- コスト縮減は基本的な考えである一方、必要な面積は確保する必要がある。当然、いたづらに豪華な庁舎とすることは考えていない。新庁舎建設基本計画及び（仮称）新福祉会館建設基本計画に掲げる理念を実現できる施設を目指していく。また、CM事業者の支援をいただきながら事業費の精度を高めていきたい。ただし、建設市場の影響があることも御理解いただきたい。
- 【市民F】 当日配られた資料を見ても内容を理解できない。事前に資料を配布し、熟考した上で説明会に臨んだ方が有効と考える。
- 分かりにくくて申し訳ない。平成30年11月の説明会では、これまでの経過や調査した資

料を配布の上、説明を行った。説明会を経て、基本設計において施設配置を定めると決めており、施設配置等を今回示すことで、再度、施設配置の質疑になっては説明内容が分かりにくくなることを懸念して、基本設計に進むに当たっての設計者選考の考え方を、これまでの経過を含めて説明した。

【市民C】 設計者に丸投げするのではなく、市が主体となって市民が納得できるよう進めてほしい。

→ 適切な時期に市民の皆さんとは情報共有を積極的に行っていききたい。基本設計に入るに当たっては、これまで積み上げてきたものをベースとし、優れた設計者を選考の上、進めていきたい。

【市民B】 リサイクル事業所閉鎖に伴い、使えるものをどこへ持って行けば良いか困っている。リサイクル事業所の方針を早急に定めるべきである。

→ 二枚橋焼却場跡地で粗大ごみの資源化をどのように進めていけるか考えていききたい。清掃関連施設については、平成31年度に土地を取得するとともに、清掃関連施設整備基本計画に沿って設計を進める中で具体的な事業の在り方についてしっかり検討していききたい。リサイクル事業所の閉鎖については、シルバー人材センターとは協議を重ねた結果、休止を判断した。ごみの減量は今後も継続しなければならない課題と考えており、今後の環境政策にも取り組んでいきたい。

## 6 閉会

市長が次の要旨で発言した。

本日いただいた御意見も踏まえ、今後もしっかり取り組んでいきたい。

— 以上で、閉会 —